

## 第1回 (仮称)真駒内地区義務教育学校新築検討協議会 議事概要

### 1 日時

令和4年(2022年)8月29日(月)10:00~11:40

### 2 場所

真駒内桜山小学校 1階多目的室

### 3 出席者

別紙のとおり

### 4 協議会次第

#### (1) 開会あいさつ(宮野学校施設課長)

子どもたちの学びの場、地域の施設としてもより良いものになるよう、学校に関わりの深い方々にご意見等協力をいただきたく、新築検討協議会を開かせていただいている旨の開会の挨拶。

#### (2) 新築検討委員会・協議会の趣旨説明及び基本設計のスケジュールについて

(資料「新築検討委員会・協議会体系図」、「基本設計 想定スケジュール」)

(伊藤施設整備係長)

#### ア 新築検討委員会について

新築検討委員会とは、新築の基本設計を行う際に、学校に立ち上げていただいている組織であることを説明。

#### イ 基本設計のスケジュールについて

資料をもとに、新築検討協議会及び住民説明会のスケジュールを説明。

基本設計の住民説明会を終えた後、学校づくりに向けた検討を始めたいと考えている。学校づくりの協議会のメンバーを改めて学校と調整して決定したうえで、地域の方も含めた他都市視察を行い、そこからこの学校、この地域で育みたい子ども像や、それを踏まえ、どのような学校づくりをすべきかなどについて議論を行いたい。また、札幌市にとって、この規模での義務教育学校の設置は新たな取組となることからアドバイザーとして、北海道教育大学特任教授の引地先生にご参加いただくこととしている。

#### ウ 義務教育学校設置に係るアドバイザーあいさつ(北海道教育大学 引地特任教授)

新たな学びの場としての学校づくりのために、そこで学ぶ子どもたちのために、誠心誠意努力していきたい旨の挨拶。

(4) 義務教育学校の設置の考え方について（大巻義務教育担当係長）  
（資料「真駒内地区における義務教育学校の設置の考え方について」）

ア 札幌市の小中一貫した教育

札幌市では昨年2月に『札幌市小中一貫した教育基本方針』を策定。この方針に基づいて、札幌市の全小中学校で今年度4月から全面実施しているところ。小中一貫した教育の目的を達成するため、資料に記載している4つの視点で具体的な取組を推進しているところ。

基本方針の中では、小中学校の校区が概ね一致している、子どもが校種を超えていつでも交流できる、教職員が話し合いや計画づくりなどを日常的に一緒に行えることなど環境が整っている地域で小中一貫校の設置を検討するとしている。

イ 小中一貫校とは

義務教育学校はいわゆる小中一貫校の一つで、併設型小・中学校の場合は小学校と中学校が別の組織となるが、義務教育学校は組織が一つの、新たな校種となる。

ウ 義務教育学校の設置方針等について

小中一貫校をモデル校として設置し、小中教員の協働による様々な取組例を蓄積し、全市の学校にフィードバックしていくことで、札幌市の小中一貫した教育の更なる推進に繋げていくことが可能であり、設置形態については、一つの学校として運営する義務教育学校の方が、札幌市の小中一貫した教育で推進する4つの視点について、より取り組みやすいと考えている。よって、全市の小中一貫した教育の推進にあたっては、モデル校として義務教育学校を設置することが望ましいと考えている。

以上を踏まえ、札幌市では、通学区域が概ね小中同一校区で、小中一体の校舎である、または小中一体の校舎整備を行う場合は、義務教育学校として設置するとしている。

エ 真駒内地区の義務教育学校の校舎で実現したいこと

義務教育学校になることで、様々なメリットが生まれると考えている。たとえば、一つの学校ということで9年間の学びを柔軟にデザインすることができること、児童生徒を一人一人9年間見守ることができること、ひとつの教職員組織で日頃から教職員が一体となった運営ができること、一つの校舎で設置することから、児童生徒の幅広い異年齢交流が日常的にできること、小中教員が過度な労力なしに連携でき、様々なメリットを生かしやすいということがある。

真駒内地区の義務教育学校は、札幌市では定山溪地区に続き、義務教育学校として建設する2校目の校舎となる。異学年交流を日常的に行うことができる多目的室を整備するなど、義務教育学校のコンセプトを生かした校舎としたいと考えている。

今後の札幌市の義務教育学校が目指すべき姿を示すような校舎を実現したいと考えている。

(5) 児童会館の併設について（工藤整備事業推進担当係長）

（資料「学校施設と児童会館の複合化について」）

ア 児童会館の整備及び札幌市の方針等について

今回、真駒内桜山小学校の校区内の児童会館である真駒内五輪児童会館を移転し、義務教育学校への複合化、新型児童会館化を行う。義務教育学校と併設することで学校に通う子どもたちにとっては、放課後に敷地から出ることなく直接児童会館に遊びに行けるようになるため、より安心して利用できる施設になるという利点がある。

複合化後の現在の真駒内五輪児童会館については、市役所内部での公共利用希望について照会を行ったうえで、公共利用の希望がない場合は建物を解体し、跡地は売却となる見込みのため、ご理解いただきたい。

イ 複合化後の児童会館について

複合化後の児童会館 450 m<sup>2</sup>（児童会館部分 300 m<sup>2</sup>、多目的ホール 150 m<sup>2</sup>程度）となり、近年整備している他の新型児童会館と同規模の大きさとなる。多目的ホールについては軽運動が可能な小さな体育館のような部屋となり、天井高 6 m 程度（2 階建て相当）を想定。

現在の真駒内五輪児童会館は 480 m<sup>2</sup>のうち体育室 180 m<sup>2</sup>程度のため、体育室部分がひと回り小さくなる他は現在の真駒内児童会館とほぼ変わらない。

出入口は義務教育学校とは異なり、児童会館専用の玄関を設けることとなる。具体的な諸室については、遊戯室・集会室など一般的に児童会館に設けている室を想定しているが、詳細は今後検討していく。

（児童会館の概要について資料をもとに説明）

多目的ホールは児童クラブの運営終了後の平日夜間など、児童会館の事業に支障がない範囲で地域の皆様にもご利用いただくことが可能。

義務教育学校との複合施設として、これまで以上に連携協力させていただき、学校諸室の相互利用などにより活動の幅が広がるような取組を検討していきたい。より一層地域に親しまれ利用していただける施設にしていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

(6) 近年の整備事例及び新校舎の配置計画案について

（資料「(仮称)真駒内地区義務教育学校新築ほか工事基本設計 配置計画案」、パワーポイント資料「(仮称)真駒内地区義務教育学校 近年の整備事例及び新校舎の配置計画案について」）

（施設整備係 椿原）

ア 近年の整備事例と新しい取り組み

写真をもとに、近年改築した学校において整備しているワークスペース、多目的室、バリアフリー対策、避難所としての設備、新たに整備する多目的室（ICT）について説明。

イ 新築計画の概要

義務教育学校の整備方針、計画規模について資料に基づき説明。

現在の真駒内桜山小学校の屋内運動場は、そのまま活用するが、令和5年度に防水・外壁改修をする予定。また、新築に伴い解体するプールは再整備せず、公共プール等を利用することを予定している。

ウ 配置計画案について

資料をもとに、新校舎の配置計画案について説明。

現校舎のグラウンド位置に建設する南西・3階建て案と、現在の校舎の位置に建設する北東・3階建て案について、各案の特徴、施工計画、評価（周辺への影響、開放エリアのまとまり、屋内運動場の連動性、グラウンド形状・規模、仮設校舎の有無と事業費、新築完成までの工期）について説明。

本日の協議会では、敷地の中でどこに建物を建てるか、配置の方向性についてまとめたいと考えている旨を説明。

(7) 質疑応答

質 疑	回 答
ア 義務教育学校について	
9年間の学びということだが、中学受験は自由か。	私立の受験は今まで通り可能。
小中一貫校となり具体的に何が変わるのか、行事で9歳離れた子の交流はどのようになるか。デメリットはないのか。9年間一緒にいることで、いじめ、不登校の子は辛くないか。教育委員会、学校でしっかりケアしてほしい。	義務教育学校になることで小学校6年間・中学校3年間によらない、柔軟な学年の区切りによる教育活動ができるようになる。 義務教育学校のデメリットとしては、9年間一つの学校にいるとリーダーシップが育ちにくいと言われることがある。ただ、我々が視察した学校では4年・3年・2年に区分を分けて教育活動を行うとともに、それぞれの段階でリーダーシップを経験できるよう取組を進め、逆に3度もリーダーシップを経験できる取組を進め、一般的に言われるデメリットをメリットに変える学校運営を行っている。 また、異学年交流を積極的に取り入れており、例えば、4年生と7年生が一緒に宿泊学習に行くなどの取組を行って

	<p>いる。</p> <p>異学年交流の効果については、年齢が離れるほど良好な関係を築く傾向が高いとのことで、視察した学校では、義務教育学校となったことで問題行動が1/4に減ったとの話があった。中学生は年の離れた子どもの前で先輩らしくあろうと頑張り、その結果、下級生にとって憧れの存在となることで、上級生の自己肯定感が高まるという好循環が生じることも一つの要因と聞いている。そういったメリットを活かせるような学校を、これから教育委員会、学校、地域の皆様としっかり手を携えて作っていきたいと考えている。</p>
<p>義務教育学校となると中学生は8年生、9年生という呼び方になるのか。</p>	<p>そうなる。</p>
<p>学校の呼称はどうなるのか</p>	<p>来年度、東区の福移小中学校が義務教育学校1校目として開校予定だが、「札幌市立義務教育学校福移学園」となる。全国的にも義務教育学校を「学園」と呼ぶことは一般的であり、札幌市においても、小学校低学年の学校名の読み書きにも配慮し、〇〇学園と呼べるよう整理した。</p>
<p>イ 配置計画案について</p>	
<p>図書室のスペースは小学校と中学校の分となるとかなりの量になるし、1～9年生が入り混じった状態で利用するのが、そういう良さもあると思うが、図書室の広さは現状より大きくなるのか。小学校は読み聞かせが盛んで、地域に開かれて色んなイベントをしている。地域の人が入りやすいような、子育てサロンをやっている近くに低学年用の図書室を設けるとか、そういったことも考えられると思う。</p>	<p>図書室の面積は200～300㎡を予定しており、現状の小学校図書室より広いスペースを確保できる予定。</p> <p>たとえばA案だと、図書室が1階の真ん中にあり、昇降口から近く、開放図書にも利用しやすいと考えている。</p>

現在の桜山小にある、ことばの教室などはA案でいうとどこになるのか。	通級指導教室と書いているエリアになる。
A案B案を判断するにあたり、建物の一般的な配置について知識がないので、グラウンドが南側など一般的なものがあれば教えてほしい	次回協議会の冒頭で説明するか、事前に情報提供させていただく。
ウ 児童会館について	
真駒内五輪児童会館は誰も手をあげなければ解体して売却と説明があったが、何年くらい地域から手があがらなければ、何年後とか、考えているか。解体してしまうのはもったいない感じがする。	学校ができてから何年間としてしまうと空き家の状態で何年も経過してしまい、建物として危険な状態になる。引っ越しをするまでの間に、こういった協議会の場などでご意見をいただきたい。
エ その他	
プール学習はなくなるのか。	プール学習はなくなる。プールを整備した場合、年間に使用する時間が数十時間に限られており、施設の維持管理が大変な状況。改築や施設の老朽化を契機に、プール施設は新設せず、市内の公共プールや民間プールなどを活用する取組をしている。教員の負担軽減やインストラクターによる、よりきめ細かい指導を期待できるもの。なお、公共プール等には、距離によりバスをチャーターして移動している。
特別支援学級は1クラス何名か。知的障がいや身体障がいなど、さまざまな障がいがあるがどのように対応しているのか。	特別支援学級は1クラス8名。知的障がいや自閉症、情緒障がいなど障がいの種類に応じてクラス編成を行っている。
子どもたちからアンケートをとる機会はあるか。子どもたちはどうやって考えているのか、わかれば教えてほしい。	子どもたちの意見をどういう形で取り入れられるか、検討してまいりたい。
地域の方から配置案について質問等があったときに、どこに問い合わせたいか。	教育委員会学校施設課に問い合わせいただきたい。
配置計画案等についての意見	
ア 義務教育学校について	
自身の経験をもとに考えると、中学校に行くときに、学区や学校の方向が変わって、	

ギアチェンジし、子どもながらに成長があったのではないかと思うところもあるが、1～9年生が一緒になるのがいいということなので、理解するように努めていきたい。

#### イ 配置計画案について

B案の方がいいと思う。A案はグラウンドに日影がかかる。また、2つのグラウンドが近くなる。A案は学校の位置が正反対になり、比較的道路幅の狭い北側の住人にとっては子どもたちの声の影響があるのかと思う。仮設校舎には10億円ほどかかるというが、今後50年以上使う校舎になるので、多少お金がかかっても子どもたちの学び舎として、地域全体にとっていい学校となるよう検討してほしい。

A案B案どちらにしても、児童生徒や教員の負担が少ない方がいいと考えている。コロナの関係もあるが、外から人が入ってくる場所は学校と分離できる配置がよい。

A案とB案を比べると、利便性・工期・経費の面からA案がいいと思う。

#### ウ 児童会館について

学校に行けないけど児童会館なら行けるという子どももいる。学校と昇降口が近いが、学校に行きにくい子がますます行きにくくならないよう昇降口の位置に配慮してもらいたい。

#### エ その他

災害避難の備蓄は、近隣住民がしっかりと非難できる食料、水、防寒着などしっかり備えてほしい。

50年近くこの地域に住んでいるが、真駒内地域は南北に細長いので、義務教育学校は真駒内曙中・公園小の配置も考えると、いい場所に設置することになったと思っている。

今、校舎の上階がとても暑く、子どもたちも先生も大変な思いをしている。冷房に関しては色々ご意見やお考えがあると思うが、これから北海道もどんどん暑くなると思うので、上階に行くほど暑くなるという設計はしないでいただきたい。

真駒内桜山小が立ち上がる前の、真駒内緑小を真駒内南小に移すにあたって、真駒内緑小の歴史的なものを展示する部屋があった。オリンピックのジャネット・リンの記念物を見たときに感銘を受け、真駒内桜山小になっても残してほしいという希望を出させていただいた。学校は地域の歴史でもあるので、学校の名前が残らなくても、どこかの部屋で構わないので、当時の真駒内緑小の歴史も残してほしい。

部活など9年間同じスポーツに取り組む子どもが増えると思うが、先生方の負担軽減や子どもたちが経験者などや外部指導員をしっかりと配置いただくよう、ぜひ教育委員会で進めてほしい。

協議会に代表という立場で参加しているので、資料をいただいてすぐ判断するのが難しい。事前に資料提供をいただくと意見や質問の集約ができるので、次回から事前に資料をいただくと助かる。

**【結論】**

配置計画については、ご意見を踏まえながら教育委員会で検討の上、次回に向けて教室等の配置案を検討することとする。

(8) 新築検討委員会委員長あいさつ(真駒内桜山小学校 小田校長)

学校は子どもたちのものだけでなく、地域の大きな財産、地域とともに育っているものであり、地域における学校の価値を改めて感じている。

現在、義務教育学校設立前に小中の先生方で連携して研修等を進めているが、小中連携から一貫校へと3年半、歩みがあるので、小中連携しながら進めてまいりたいと考えている。皆様にお力添えを賜ることがたくさんあるかと思う。大変お忙しい中かと思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。

以上



## (仮称)真駒内地区義務教育学校新築検討協議会 名簿

	所属	役職・係等	氏名 ※敬称略	第1回 出欠
検討委員会 メンバー	町内会・評議員関係	真駒内地区連合会 会長	横堀 道子	○
		真駒内まちづくりセンター所長	日下部 有紀	○
		真駒内中学校評議員	山岸 光生	○
		真駒内中学校評議員	佐々木 美代子	○
		真駒内中学校評議員	佐藤 隆子	○
		真駒内桜山小学校評議員	丸岩 浩二	○
		真駒内桜山小学校評議員(真駒内五輪児童館館長)	三好 達也	○
		真駒内桜山小学校評議員	渡部 正子	○
		泉町三丁目自治会 会長	柴 知之	○
		真駒内泉町道営住宅H団地自治会 会長	小林 美恵子	○
		真駒内南町二丁目自治会 副会長	表山 尚史	○
	PTA関係	真駒内中学校PTA会長	河野 美和	○
		真駒内桜山小学校PTA会長	宮原 亮	×
	学校関係	真駒内中学校長	山根 衛二	○
		真駒内中学校 教頭	長尾 美保子	×
		真駒内桜山小学校長	小田 英人	○
		真駒内桜山小学校 教頭	高柳 裕一	○
		駒岡小学校長(オブザーバー)	安藤 九一	○
	アドバイザー	北海道教育大学札幌校 特任教授	引地 秀美	○
19名				
札幌市 関係	教育委員会生涯学習部 学校施設課	学校施設課長	宮野 純一	○
		計画係長	高橋 正樹	○
		計画係	高橋 花	○
		施設整備係長	伊藤 哲夫	○
		施設整備係	椿原 広大	○
	教育委員会学校教育部 教育推進課 教育課程担当課	学びのプロジェクト担当係長	柴垣 孝治	○
		義務教育担当係長	岩田 悟	○
		義務教育担当係長	大巻 太一	○
	都市局建築部 建築工事課	工事三係長	山崎 大史	○
		工事三係	岩間 絢平	○
		工事三係	石垣 篤	×
	子ども未来局子ども育成部 子ども企画課	整備事業推進担当係長	工藤 大志	○
		施設保全担当係長	片桐 有也	○
	設計事務所 (㈱都市設計研究所)	代表取締役	松田 真人	○
14名				